

第6回福島原発事故による長期影響地域の生活回復のためのダイアログセミナー
「飯舘一問題の認識と対応」

2013年7月6、7日（土・日）

会場：福島市保健福祉センター5F 大会議室（tel: 024-525-7670）

<http://www.city.fukushima.fukushima.jp/soshiki/36/shisetu-yakusho24-1.html>

発起人

国際放射線防護委員会（ICRP）

協力と援助

飯舘村、福島市、放射線安全フォーラム、福島のエートス、福島県立医科大学
ベラルーシ緊急事態省チェルノブイル部、
経済協力開発機構・放射線防護公衆衛生委員会、フランス放射線防護・核安全研究所、
ノルウェー放射線防護局、フランス原子力安全局

同時通訳

ディプロマット社（平野加奈江、町田公代）

会合関連サイト

ICRP 通信：<http://icrp-tsushin.jp/>

福島のエートス：<http://ethos-fukushima.blogspot.jp/>

経過と目的

国際放射線防護委員会（ICRP）は、長期汚染地域居住地域住民の防護に関する勧告において、汚染地域の住民と専門家が状況の対応に直接関与することが効果的であること、および国や地域の行政は地域住民が自ら決定しうる状況を作りだし、その手段を提供する責任があることを強調している。

この観点に基づき、ICRP は、2011 年秋に会合を開催し、福島県の代表、専門家、地域住民の方々、およびチェルノブイル事故について経験を有するベラルーシ、ノルウェー、フランスの関係団体からの代表などが、福島原発事故の影響をうけた地域の長期の回復に対する挑戦についてその方策をさぐるためのダイアログセミナーを行った。

第一回のダイアログセミナーは、2011 年 11 月 26 日と 27 日の両日にわたり、福島県庁の会議室で開催された。ここで参加者は、安全な生活条件と高い品質の作物の生産、そして外部地域との連帯を介した地域コミュニティの再生の重要性を確認した。さらに参加者は、人々が事故の状況を理解しさらに評価することを通じて影響をうけた地域での生活からうける放射線被曝を低減するために必要な放射線防護の文化を醸成することの重要性を確認した。

第二回の伊達ダイアログセミナーは、2012 年 2 月 25 日と 26 日の両日にわたり、伊達市保原市民センターと保原スカイパレスで開催された。この会合の目的は、福島放射線の状況の改善について討論し、その障害になる問題点を明らかにし、市民の生活を改善する道をさぐることであった。参加者は、人々の心の問題、とりわけ住民が尊厳を保

ちうることの重要性、そして地域、国内、国際を通じた連帯を強調した。参加者は、住民がどこでどのように被曝したかなどを人々が知るため、放射線の状況についてさらに詳細な情報を必要としていることを、認識した。

第三回ダイアログセミナー（2012年7月7日・8日、伊達市）では、2012年夏の始めにおける放射線状況を論じ、これを改善するためにステークホルダーの方々の最近の経験の共有に努めた。とりわけ困難な問題である食品の汚染について、その複雑な状況を理解し、異なる、また時には対立する利害関係をもつステークホルダーとともに、状況改善の道を探った。

第四回ダイアログセミナー（2012年11月10日・11日、伊達市）は、これまで3回のダイアログを通して得られた状況判断を踏まえて、地域の次代をになう子供の教育を取り上げた。二日にわたる会合では、まずノルウェーとベラルーシにおけるチェルノブイル事故の教訓を共有した。そして事故以来1年半にわたって続けられてきた福島教育現場でのいろいろな取り組みについて知識を共有した。ついでこれらを踏まえて、対話を通じて問題点の発掘を行い、今後の福島での教育の方向を探った。

第五回ダイアログセミナーでは、「帰還」を取り上げた。帰還についての決断は、単に放射線の状況のみではなく、長期汚染をこうむった地域における生活の全ての状況を考慮してのものである。この決断には、帰還または帰らない、地域に留まるまたは地域を離れる、の複数の選択肢どれにも困難が伴う。また、決めかねている間に、状況は刻々と変化していく。この複雑で困難な問題について、幅広い関係者、組織、住民、教師、医師、行政、チェルノブイル経験者が一堂に会し、立場の違いを越えて、汚染地域の困難な状況に前向きに立ち向かうために共有すべき、また共有しうる価値を探った。

第六回ダイアログセミナーでは、「飯舘」の人々が直面する現状と挑戦に目を向ける。2011年4月22日に計画的避難区域に指定されたことにより、飯舘の人々は生活の場である土地から切り離され、見知らぬ場所での避難生活を余儀なくされた。それから2年が経過したが、今もなお汚染が残る故郷で生活を回復するためには、多くの困難な問題が存在する。

そこで、飯舘村の関係者と、様々な立場で村の再生を支援する人々が一堂に会して、村の現状と直面する問題の共有に努める。その上で、それらに前向きに立ち向かうため、議論を深める。

会合の進め方

同時通訳：英語と日本語の同時通訳をイヤホンで聞くことができます。

セッションの構成

午前のセッション：共有すべき事実関係についての発表です。

午後のセッション：帰還についての関係者の対話を行います。

懇親会：7月6日のセッション終了後に、福島駅西口のロレーン&リーフで、懇親会を開催します。皆様のご参加をお待ちしています。参加無料です。

<http://tabelog.com/fukushima/A0701/A070101/7000261/>

プログラム

第1日目 7月6日(土)

9:30-10:00 開会

全体司会：ジャック・ロシャール、多田順一郎

挨拶

飯舘村村長菅野典雄氏とICRP委員ジャック・ロシャール氏による歓迎の挨拶

自己紹介

国内・海外参加者による自己紹介(各自1分で名前、専門、経験)

10:00-11:00 セッション1 現状と問題

飯舘の線量(20分)

万福裕造(飯舘村、農水省より派遣)

屋内放射線(20分)

吉田浩子(東北大学)

放射線量の物差しをつくる(20分)

伴信彦(東京医療保健大学、放射線防護)

11:00-11:10 コーヒーブレイク

11:10-12:10 セッション1 現状と問題(続き)

飯舘の状況(20分)

土屋由美子(飯舘村保健師、草津町より派遣)

飯舘の医療(20分)

宮崎真(福島県立医科大学)

飯舘再生のための試み(20分)

小川唯史(ふくしま再生の会)

12:10-13:10 昼食

セッション1 現状と問題(続き)

13:10-14:20 セッション2 ベラルーシのこれまで

ブラギンでの食品汚染と日常生活(30分)

アナスタシア・フェドセンコ(ベラルーシ・クラスノイエ地域、食品検査担当)

ブラギンと福島：相違と類似(20分)

安東量子(福島のエートス、いわき)

討論(20分)

14:20-14:40 コーヒーブレイク

14:40-16:40 セッション3 飯舘の人々の状況についての対話(ステップ1) 何が問題なのか?

司会：ジャック・ロシャール

報告担当：ジャンフランソア・レコメ、テリー・シュナイダー

ステップ1の進め方：

ステップ1で対話参加者は設問に対する回答を2回行う。

初回は自分の意見を述べる。

次回は他の方々の意見を聞いたあとで、自分の意見を述べる。

すべての意見表明が終了したあとで、報告担当者によるまとめがなされる。

パネル討論参加者

外部協力者： 岩瀬広 （高エネルギー加速器研究機構）

吉田浩子（東北大学）

万福裕造（飯舘村、農水省）

伴信彦（東京医療保健大学）

安東量子（福島のエートス、いわき）

小川唯史（ふくしま再生の会）

桐山岳大（までいな対話の会）

飯舘村民： 菅野宗夫（飯舘村）

菅野元一（飯舘村）

庄司智美（飯舘村）

菅野義樹（飯舘村）

酒井政秋（飯舘村）

フロアからの参加者

医療・保健： 宮崎真（福島県立医科大学）

報道： 早川正也（福島民報）

菊池克彦（福島民友）

大森真（テレビュー福島）

16:40 – 17:00 報告担当者によるまとめ

17:00 – 17:40 総合討論

18:00 – レセプション 福島駅西口「ロレーン&リーフ」

第2日 7月 7日 (日)

09:30-9:40 開会

司会：ジャック・ロシヤール、多田順一郎
新規参加者の自己紹介（各1分で名前、専門、経験）
第1日目のまとめ

9:40-10:40 セッション4 飯館のこれから

飯館の教育（20分）
八巻義徳（飯館村、教育長）
飯館村民の健康（20分）
大平哲也（福島県立医科大学）
いいざか子育て座談会 ～放射線不安と向き合った母親たち～（20分）
八代千賀子（福島市保健師）

10:40-11:00 コーヒーブレイク

11:00-12:20 セッション4 飯館のこれから（続き）

飯館村農地の現状（20分）
菅野宗夫（飯館村、農産農家）
農地回復に向けた線量測定（20分）
岩瀬広（高エネルギー加速器研究機構）
農地回復に向けた新しい除染の試み（20分）
溝口勝（東京大学）
飯館の農業（20分）
菅野元一（飯館村、育種農家）

12:20-13:20 昼食

13:20-13:40 セッション4 飯館のこれから（続き）

飯館でできること（20分）
佐野ハツノ（飯館村、いいたてカーネーションの会）

13:40-15:40 セッション5 飯館の状況改善にむけての対話（ステップ2）

いかなる条件と方法が必要か

司会：ジャック・ロシヤール
報告担当：テリー・シュナイダー

ステップ2の進め方：

ステップ2の進行のやり方はステップ1に準ずる

パネル討論参加者

外部協力者： 岩瀬広（再生の会、高エネルギー加速器研究機構）
吉田浩子（東北大学）
伴信彦（東京医療保健大学）
安東量子（福島のエートス、いわき）

飯舘村民： 溝口勝（東京大学）
桐山岳大（までいな対話の会）
菅野宗夫（飯舘村）
菅野元一（飯舘村）
佐野ハツノ（飯舘村）
大河内敏栄（飯舘村）
菅野義樹（飯舘村）
酒井政秋（飯舘村）
フロアからの参加者

医療・保健： 大平哲也（福島県立医科大学）
宮崎真（福島県立医科大学）
八代千賀子（福島市保健師）

教育： 八巻義徳（飯舘村、教育長）

報道： 早川正也（福島民報）
菊池克彦（福島民友）
大森真（テレビュー福島）

15:40 – 16:10 コーヒーブレイク

16:10 – 16:25 報告担当者によるまとめ

16:25 - 17:00 総合討論

17:00 – 17:30 まとめと勧告

17:30 – 17:45: 閉会

全体のまとめ（10分）

テッド・ラゾ（経済開発機構）

閉会の挨拶

ジャック・ロシヤール、菅野典雄村長